希少がん・小児がんに親しむ

寺本 典弘
四国がんセンター病理科・臨床研究センター

今回の学術集会では、教育研修委員会主宰のがん登録担当者研修会「希少がん・小児がんに親しむ」について振り返ります。

今学会のサブテーマ『希少がん、小児がん、AYA世代のがん』は特殊な施設の実務者以外にとっては馴染みが薄いがんです。特定のがん種というわけではなく、それぞれ『希である』、『がんの起こりにくい年代に生じる』という共通点でくくられたものにすぎないので、診断や治療法は多種多様で希少がん・小児がん同士でも大きな差があります。

今回は希少がん、小児がん、AYA世代のがんについて、東京都立駒込病院の元井先生、下山先生、国立がん研究センターの稲本先生、成田先生、国立成育医療研究センターの松本先生にご講演いただきました。単に、最前線のがんの知識を伝えるのみではなく、それらのがんの登録上の注意点を含めた講義であったので、実務者は勿論、これからの研修会で講義する側にとっても参考になりました。web学会となったので、疑問点に↗↘対する追加質問が十分出来なかったという悔いは残りますが、別の観点から見れば、このメンバーをそろえられたのはweb学会の利点だったかもしれません。

希少がん・小児がんは、演者を立てる点でも、実務者のレベルを選ぶ点でも、地方の研修会等で取り上げるのは困難です。全国集会であるJACR学術集会の研修会としての役割の一つとなるかもしれません。

また、がん登録の実務者だけでなく、たとえば『低悪性度線維粘液肉腫ってなに？Grade1の粘液線維肉腫とちがうの？』とか、『毛がある白血病細胞とかふざけているのか？』と思っている行政関係者・がん登録研究者にも是非聞いていただきたいと思います。この一群に対してある程度の知識を持っていないと、データも解釈もとんちんかんなものになってしまいかねません。幸いにもJ-CIPのHPで公開される予定なので、是非ご覧ください。

実務者研修会参加者からの報告

中林 愛恵
島根大学医学部附属病院

JACR第30回学術集会「がん登録担当者研修会」に参加しました。なかなか講義を受けられない希少がん・小児がんについて学べて、とても貴重な機会でした。職場のPCから聴講しましたが、チャット機能を用いて質問することができて、ライブ感ただよう研修会でした。

元井亨先生(東京都立駒込病院)には、希少がんである肉腫の病理診断について、癌腫との違いや軟部腫瘍の好発部位や発生年齢の違いを教えていただきました。病理で確定診断がつけられない具体例をあげていただき、病理報告書を読む上で大変参考になりました。

下山達先生(東京都立駒込病院)は、悪性リンパ腫を出世魚に例えて教えていただきとても分かりやすかったです。話題のCAR-T療法についてもご説明いただき、今後予後の改善などの結果がが登録であらわれてくるのが楽しみだと思いました。

稲本賢弘先生(国立がん研究センター中央病院)には、白血病のWHO分類が遺伝子異常を反映するようになったことを↗↘教えていただきました。血液疾患にとって造血幹細胞移植は重要であることが分かりました。

松本公一先生(国立成育医療研究センター)には、成人がんと異なる小児がんの特徴を教えていただきました。長期生存が可能な小児がんでは、晩期合併症への対応や支援が重要になるため、がん登録から情報を提供していくことが大切だと思いました。

成田善孝先生(国立がん研究センター)には、分かりにくい脳腫瘍の局在や組織型の登録方法について教えていただきました。脳腫瘍は分類や部位が複雑であり、迷ったら脳神経外科医に迷わず相談とおっしゃっていただきました。希少がんはいずれも症例数が少ないので登録実務者がなかなか熟練できません。臨床や病理の先生と良好なコミュニケーションをとって、質問できる関係を築けるといいなと思いました。

ぜひ今後もJACRの実務者研修会で学んでいきたいです。このような研修会を企画していただき、ありがとうございました。